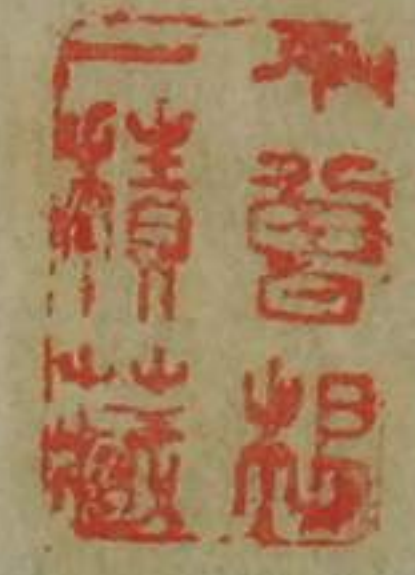


ル 3
3279
70



木曾路名所圖會卷之六

慈眼大師堂	新宮鳥居	御宮	拜殿	神樂所	鐘樓	御廐	御飯殿	深砂王宮	見目祠	日光山	目
龜井水	三佛堂	奥院	護摩堂	鼓樓	御手水屋	石燈爐	長阪石	下桑石	黒髮山	珠	
稻荷祠	常行堂	御別所	御唐門	御本地堂	紫銅御鳥居	御番所	石鳥居	神橋	辨石觀音寺		
文殊堂	法華堂	相輪檜	御瑞籬	陽明門	經藏	二王御門	五層塔	飯橋	星宮		



北日御靈舎
 新宮別所
 阿彌陀堂
 地藏石
 山王祠
 御別所
 二王風雷門
 根幸祠
 此番神堂
 不動石
 御産宮
 三層塔
 本地堂
 新宮大持現
 十八王子
 三尊石
 薬師堂
 不動堂
 正観音堂
 龍尾社
 子種石
 手掛石
 七花泉
 白山権現
 本社味根社
 山王祠
 金剛堂
 毘沙門天
 大黒堂
 行者堂
 三笠赤倉祠
 持燈護摩所
 千手堂
 酒泉池
 外山
 天神祠
 小玉堂
 辨天堂
 縮荷祠
 慈覚堂
 山王祠
 十王堂
 石橋
 熊野杉
 石鳥居
 幸地堂
 三本杉
 氷岩
 地藏堂
 四本龍寺
 鹿島祠
 護摩所

本巻六目一

番神堂
 南谷
 釋迦堂
 池石
 不動堂
 大黒山
 羽黒瀧
 護摩堂
 骨堂
 金剛山
 十八王子
 足痕石
 観音堂
 別所
 西谷
 愛宕祠
 二本杉
 三笠赤倉祠
 富士見山
 性生院
 石地藏
 素麩瀧
 中禪寺道條
 薬師堂
 鞍掛山
 足尾
 三宮
 善女寺谷
 八幡祠
 常行念佛堂
 寂光神社
 川俣温泉
 阿彌陀堂
 靈庇閣
 平石
 地藏堂
 大日堂
 煩悩山
 馬返
 一宮
 妙道院
 延命地蔵
 求聞持堂
 二子山
 別所
 慈雲寺
 赤柳山
 二宮山
 蓮華石
 裏見瀧
 清瀧権現
 不動堂

神子石 神子石
 溪地花 溪地花
 立本親吉 立本親吉
 戒壇堂 戒壇堂
 三層塔 三層塔
 藥師堂 藥師堂
 龍燈石 龍燈石
 紅葉浦 紅葉浦
 宇津龍 宇津龍
 湯幸道 湯幸道
 湯滝 湯滝
 燒湯 燒湯
 藥師湯 藥師湯

牛石 牛石
 鐘樓 鐘樓
 中禪寺社 中禪寺社
 根辛祠 根辛祠
 護摩所 護摩所
 日輪寺 日輪寺
 依石庵 依石庵
 椰子庵 椰子庵
 葛蒲沼 葛蒲沼
 赤沼 赤沼
 湯守 湯守
 世湯 世湯
 河原湯 河原湯

中禪寺 中禪寺
 不動堂 不動堂
 男體山 男體山
 摩伽羅天 摩伽羅天
 歌乃溪 歌乃溪
 上野島 上野島
 千手溪 千手溪
 大寄岩 大寄岩
 獅子岩 獅子岩
 弓張岩 弓張岩
 御所湯 御所湯
 自在湯 自在湯
 大真子 大真子

湖水 湖水
 妙見祠 妙見祠
 三社權現 三社權現
 山王祠 山王祠
 梵字石 梵字石
 鳳凰水 鳳凰水
 大尾 大尾
 金腸山 金腸山
 幕張山 幕張山
 滝湯 滝湯
 中湯 中湯
 小真子 小真子

本卷六目二

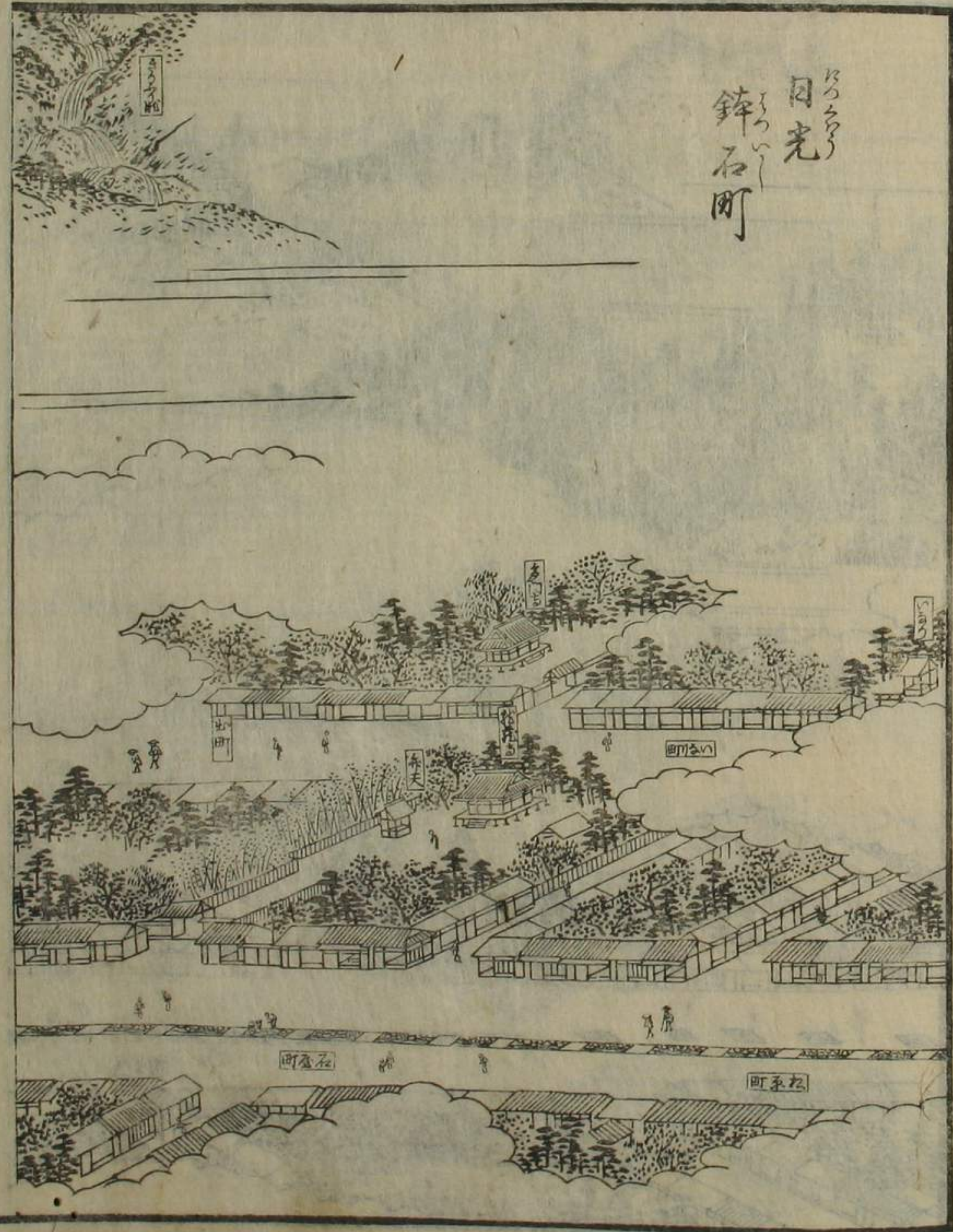
碎山 碎山
 前二荒山 前二荒山
 温泉嶽 温泉嶽
 白根山 白根山
 日光名産 日光名産
 宇都宮通 宇都宮通
 越谷 越谷
 雀宮 雀宮
 小山判官城址 小山判官城址
 不動院 不動院
 淡竹川 淡竹川
 堀鼻井 堀鼻井

帝釋嶽 帝釋嶽
 三笠山 三笠山
 女峯山 女峯山
 湯殿山 湯殿山
 日名製 日名製
 今市 今市
 石橋 石橋
 古河 古河
 草加 草加
 栗橋 栗橋
 小金山 小金山
 大井 大井

大王山 大王山
 赤倉山 赤倉山
 太郎嶽 太郎嶽
 華嚴嶽 華嚴嶽
 從日光道法 從日光道法
 德田 德田
 新田 新田
 幸子 幸子
 法州 法州
 藥師寺 藥師寺
 安徳寺 安徳寺
 千住大橋 千住大橋
 霞ヶ関 霞ヶ関
 武蔵野 武蔵野

雪山 雪山
 鈴嶽 鈴嶽
 月山 月山
 大平 大平
 壬生通 壬生通
 宇都宮 宇都宮
 小山 小山
 真土山 真土山
 石橋 石橋
 小金山 小金山
 大井 大井
 同田 同田
 雀宮 雀宮
 堀鼻井 堀鼻井
 日向 日向
 金龍山 金龍山
 向岡 向岡

木曾路名所圖會卷六目錄 畢



日光
鉾石町

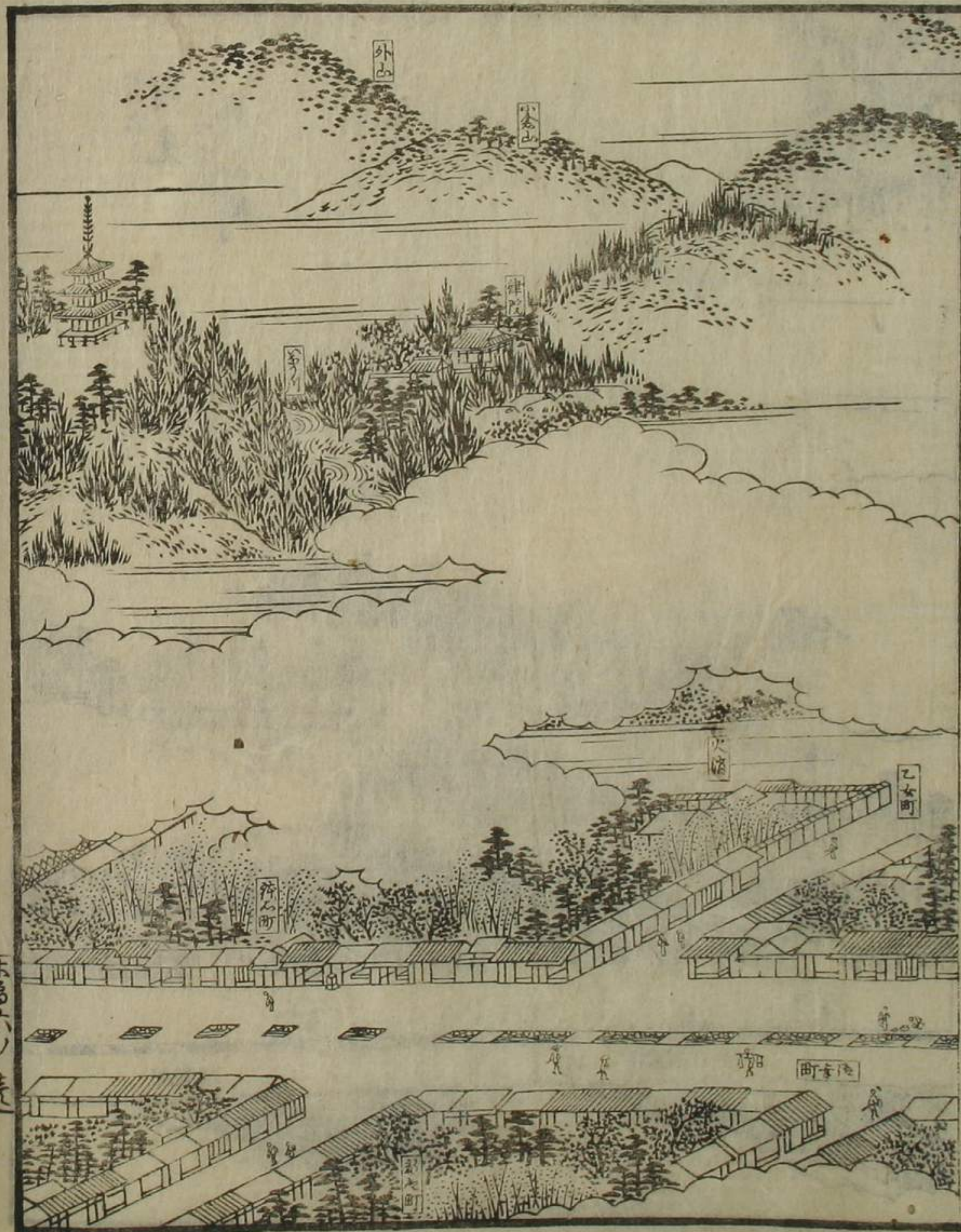
寺山

町石

町系

本巻六目三

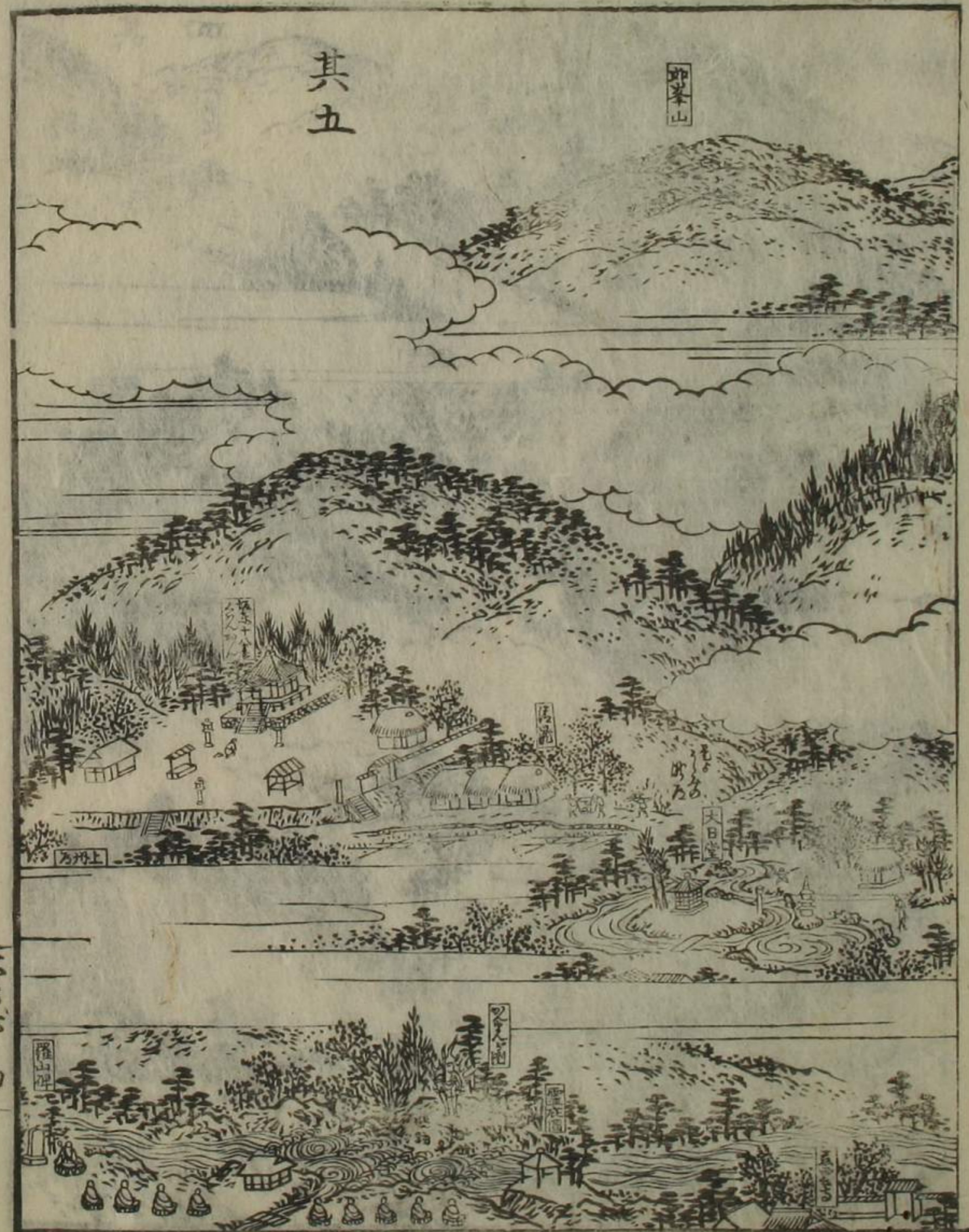
本會館の町圖會卷六目叙畢



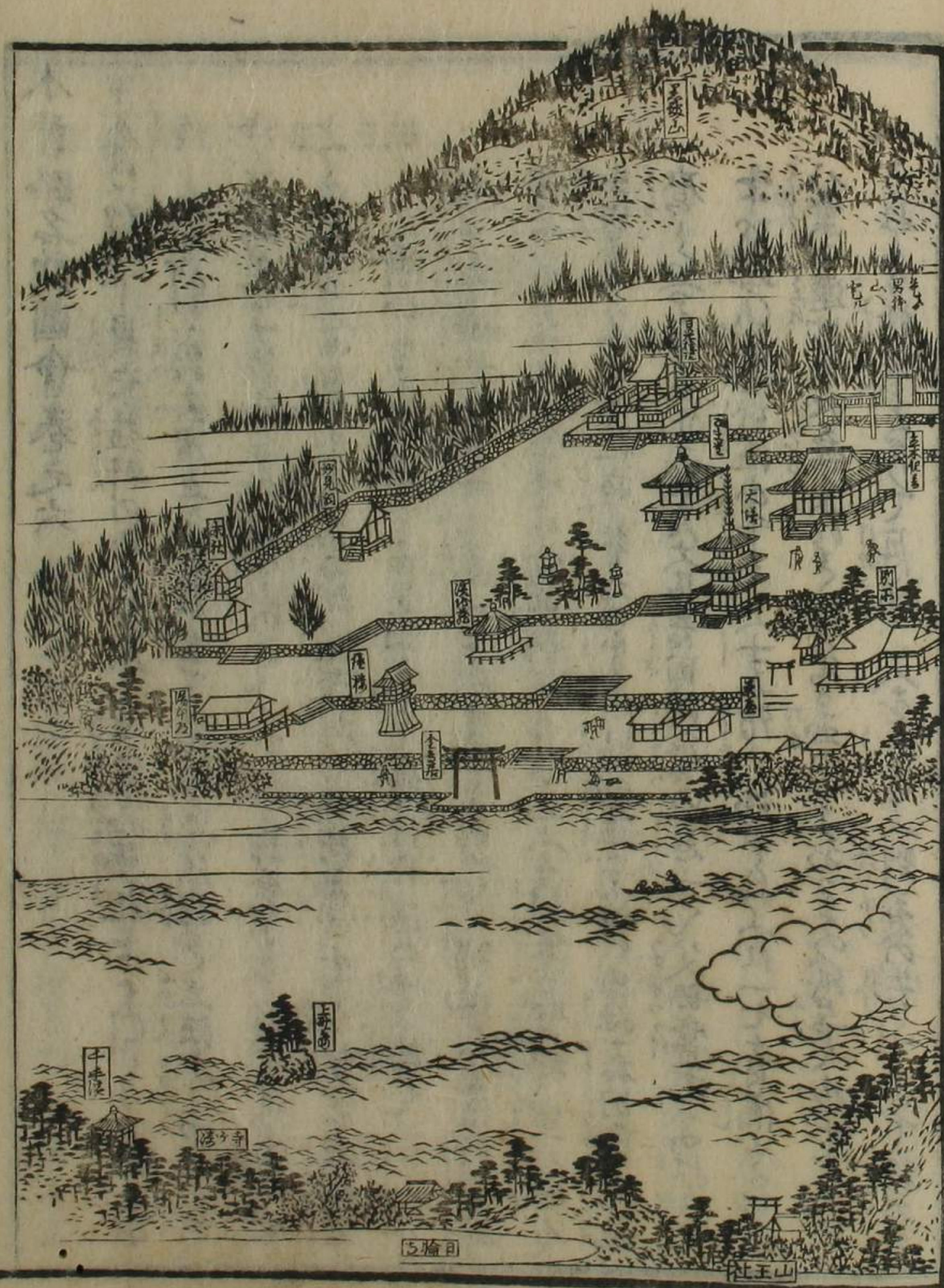




本巻六ノ三



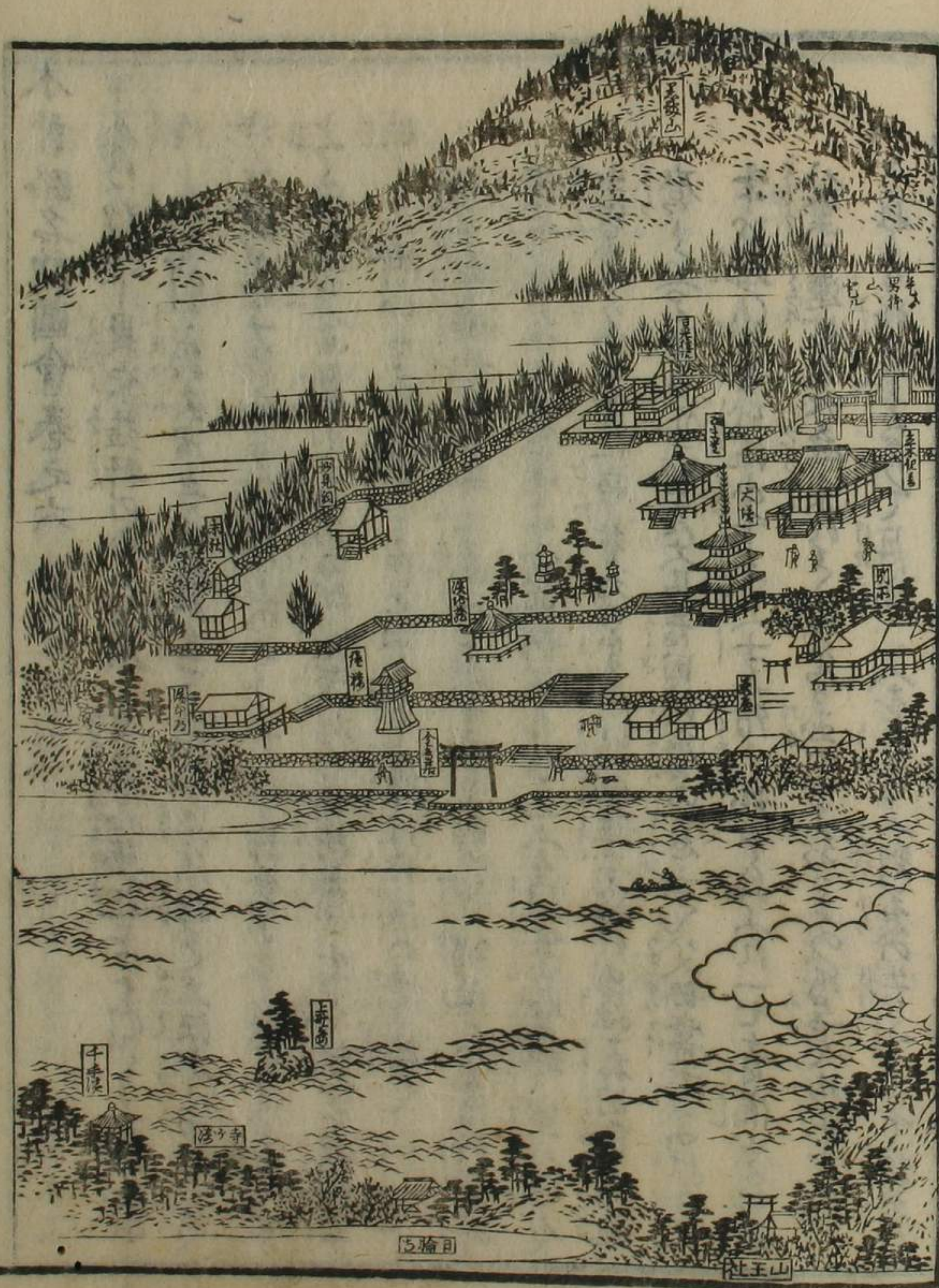
本巻の四



其六

中禪寺

本卷六五



本巻六五

新十

後人の真若此蓋也朽ぬん是うみ山の五月雨乃以

公實

新後拾

身のうみ山の人事七とてうみ山は山は落るる雪

頼政

日本紀第五云

崇神天皇之子豐城入彦命夢自登御諸

山向東而弄槍八回擊力於是奏夢事天皇以豐

城命令治東國是上毛野君下毛野君之始祖也

延喜式云

下野國河内郡二荒山神社名神

神社考云

余案二荒日光音相近蓋其是耶又二荒和訓與

補陀洛音相似由是浮屠誘國俗而遂号補陀洛

釋書云

山歟

勝道姓若田氏野之下州芳賀郡人早山塵累鑽

仰勝業州有補陀洛山峰巒峻峙振古未有隙者

道以神護景雲元年七月企跋涉路險雪深雲霧

晦暝不能登止山腹凡經三七日而還天應元年

本卷六十七

孟夏又興先志亦屈而退延曆之始季春之月發

大誓致勤修且日者回不到山頂亦不至菩提漸

達于頂衆峰環峙四湖碧深奇花異木殆非人境

道堅誓所遂悅目喜心乃結蝸舍於西南隅修懺

又三七日道雖究山區未盡湖曲三年之夏造小

船浮東湖西南北湖備極游蕩就勝處建伽藍曰

神宮寺居四載道行與靈境並傳桓武帝聞之勅

任上野講師又與都賀郡創華嚴精舍大同二年

州界大旱刺史令道祈雨道上補陀山行法雪甘

雨速降百穀皆登

圓仁姓壬生氏野之下州都賀郡人也昔崇神天

皇第一皇子豐城入彦節察東壤其次子留為鄉

人仁其胤也延曆十三年生焉是日紫雲覆產屋

同書云

日光野

同郡大慈寺僧廣智德行兼優俗号廣智菩薩者也。適見祥雲出尋起所乃檀越壬氏之宅也。其後仁遂就廣智智將仁登齋嶽與傳教教悅納焉。世云圓仁大師登日光山立寺院。

又二荒も書け入口の所沢初石とら又辨石も書け今市より二里の間河樹の枝ありと農家ありて辨石の本戸と入家松原町石

左所町の頭東例

瑞雲山龍藏寺あり奉尊親音を安ん慈覺大師の徳あり先づりふ二十二所の親世音あり群財天堂惠心の徳ありふりし寺下聖坂寺二十二番の札所しをれり清幸町東例中程小楢所町へ以道あり其所の早稲小塔守あり石裂神とあり又楢所の早稲もあり通る前辨石所と云ふ小別あり下辨石所左例は横所あり八乙女町と云ふ下辨石の中程よ

寶珠院宝苑坊とて小寺あり寺内本親音堂あり運慶の彫中聖

坂東の札所あり又所の句あり

辨石山親音寺あり寺内の山よ下千手親音堂あり弘法大師の彫

かり上辨石所は不審所の名製塗枿梳折髪曲物もあり庭有

右初先の松系所より高町まで約十三町あり

下馬は所左の方本石の厚本成登つて森の中ふ

星宮あり奉尊の天童を安ん本にお殿あり日下續本高小舎

出家入峯の節勅仍の堂あり星の宿とらふ毎年極月廿二日と

仍者下看此帷子一ッ條垂一夜めてしと成勅仍しめづりて毎年

の六月下旬は宿本出く二月二日の日出峯とるけり天下安泰國家

豊饒の所務教をり行修く日所の標本

見月明神とせ給ふ

下葉石は所よを切ぐ此方に見ゆる松の茂つてり小舎小舎と

○紫洞御書あり

○經藏傳大士の像あり信小英佛とて石階を登りて

○撞樓鼓樓 左の方小朝鮮より献上の廻金燭臺あり右の方小朝鮮より献上の持鐘あり

日光道場為

大権現設也

大権現有無量功德合有無量崇奉結構之雄也

味曾有繼述之孝益彰先烈我

王聞而歡喜為鑄法鐘以補靈山三寶之供仍

命臣植叙而銘之銘曰

丕顯英烈 肇闡靈真 玄都式廓

寶鐘斯陳 參修勝緣 資薦其福

鯨音獅吼 昏覺魔伏 非器之重

一本六十一

唯孝之則

龍天是護

鴻祚楷極

○崇禎 朝鮮國禮曹參判植行司直吳敬書

○は撞鐘不持ん正月三日所祝の時鳴と有り同左の方小阿索陀

の寄進せし地臺あり其制法日本の物本よりあり又琉球

より献せり二十六缸の地臺ありは色諸彦方より納の所地臺

ありと有りは所西の方小

○御本地堂奉尊藥師如來二列鳳來寺像の薬師と撰二菩薩

十二神將を安置は所堂之伽藍にて天蓋柱金椽卷長押の

地紋も御りていづれも金銀と鍍金より儲寶殿の天井も八

間み構りた子龍の画あり狩野永真安信の手なり

○陽明門 但一武士とて所めて刀とぬきて所門内へ入

は所門内を彫りて 禁裏の陽明門を標と表す所隨身左

右より極彩色なり裏と風神雷神御門の御額あり

後陽成院の宸翰あり信小勅額門にも云々此は清門の結構比おかし
彫物身八琴茶書画あり周公貝藏揚費長房盧敖琴高院籍替康
豊干王子献孔子顔回と云々其外二笑四友六侍九哲小至ふすて悉
記と小筆端もと及び根生れと豹虎龍麒麟獅子摸いづれも南本
の端小刻ありあり其うに多うなる所もあつたる鳳凰孔雀其外扇多
まう日幸れ念歎と云々も又云々も極彩まがり同々に減令のうかお
きりるく掛ひ徳小光輝とてあつたる狐態と云々一中の通り此天井中
然の狩野探幽守信の筆あり口の間乃天井中又女画畫又左右の御回
廊折廻一白回廊あり彫物の樂天友友子献分此君又文をぬむ梅枝松
あつたるやびとに清門をへく庭上小なる栗石と縮川より巨れく
同く左の方あり

○神樂堂毎日八乙女出仕して清神樂瓜巻と日祈ふるまひ

○護摩堂奉尊五太尊明王十二天を安置は祈ふおあて正五九月十

一日より十七日まで天下安全の祈祈禱の護摩と修切せしめ

○御唐門素木造清柱とより龍下り松梅竹の彫物金具繫し向ふ乃

破風と浮由葉又ある七賢七福神等彫物あり天井と天女の彫物あり

は清門と沙汰唐木城とあり昔終り老下りは祈の彫物の至りく町

掌形を更記とるふ等もを及ひて二枚の板と其内小橋ふりあま

いうれを細ある祈りても彫の本は用ひて終るあり一珠に細工の妙し神

にへつるもの也清庭指の上は唐洞めく急とら小虫燈とあり清門のたや

○御瑞籬は彫物の千草萬花ありを危くの通名本間小遊ひ囀る風

情英霽より

○御拜殿麿に二所ふあり春瘡の男女を祈りおし

御兼座も六二十六歌記とかけし清寺と

後水尾院宸翰あり繪土佐左近將監の筆ありは御着座の間と

両方とも異邦の名木香樹を集く造りたると偶は室小へそのは光

さうふ夜林のぼろろ若くたる椒蘭と振らて其葉の敷目影をば影ふ
瀧羽毛の敷金玉狐那へ入る自然と白く守りて冬に飛翔んとすれば勢あり
御本社 貝原氏云横十一間本庭のそとに長し一間の石垣八の間洋小見のふ
石垣高後二層ありとて一階とありかたはかくては

御宮下の美葉なる春日幸一なり
芭蕉翁の御宮下

外月影の御山に清を性背け清山成二荒山と書し以空海大師無表
のくは日光と改免のふ子兼末末とけり終つて今に清光一と小
の巻きて思候八葉とありて臣民安治の酒籠より程保りまてきて
けり

あしたうやまも葉も葉も日の光り

御幸地とて玉階瑠璃光女末の意作相殿と摩多羅神山王持現あり
毎年の月長月の清神幸あり外月成 例幣使と下りけり
宣令成持けり又 御名代とて高家方奉勅日とて 御祭禮御奉行
諸彦方二人奉勅高社の清祝式奉守る幸の御端小巻とて一ふ又九

月と 御座主の宮成とて先より一山の傍侶社役の面々修人仕
ありて天下安泰に清禱あり

○奥院清幸社の後山あり 御寶篋一字紫網よりさびし清殿
の清文庫ありは所くと貴職ともふ奉指叶けん

○御宮より下向して二王御門左の通先小
御別所大樂院は所より毎日 御宮之神供成儀もれと終り三傳

○堂中二丁馬場先右の方よ
相輪檜 流と傳教大師六十四の清願文を記して敷敷本とて

日辛六所は建つてこれ六十餘列安全の清禱のありけり功德無
盡なり成をけり意願大師高山は清建管めりしは新小庭よの
人倫より及ば會歎草本の成中を佛果成けりといふ親しく見
結縁の幸は現在まで無量の罪成滅し奉奉承く三悪道の苦成
免人幸文了疑あてり其甚深微妙の功德ありけり

乃多事備の者と許されど日所也の方所別所秘光院より毎夜淨修
成備

○新宮大権現と八棟造りてありお殿あり日光大権現と稱し
祭神と大己貴命を本地と千手観音形に社を仁明天皇清宮を
年中慈尊大降の所創建より凡は國中の大社とす
見しよりは権現の所利益五穀豊饒福壽長満の所神之神寢也
糸切丸を刀世のほりけを刀拍を刀りとも五尺符ありて靈劍と又
小山新宮が着したる獲甲其外玉簪とて民臣珊瑚珠一ツと二百目
あり頼朝公の所願書より奥列奉衛進討のしに指されし其外
竹葉ありて中めを勝道上人は権現の所對向の所夜の世に書せ
し淨神録も此社に收されし毎歲三月二日奉れり二月廿八日より
三社の神樂をお殿小飾り供ませ奉るに妓藝と前日より祝言古
其日小まると衣裳と鳴り祝言其所地真ありて神靈成り免

なまぬ神樂と平宣神寺形とあり三佛堂のありて延奉の舞とあり
幸あり一山の衆徒中出動ありて南社所出く右の方に

○金剛堂あり○慈尊堂未本造り幸き慈尊大降の所新あり
三十番神不動菩薩安ん○淨供所あり

○新宮別所安養院文殊の像千子の像あり常行堂の東方あり
○新宮本社○十八王子○毘沙門長五尺許○山王社

○阿弥陀堂慈尊大降○三尊石石千五百行者○大黒堂
○十王堂○地藏石右の方殿尾の道へ入る勅旨より滝尾やで十
二所修あり小坂を登り中行ふ

○薬師堂は所より靈泉涌出れ種成をのし服成はは陰息よ
膨らむとよこよよとて目院聖作とふはく

○行者堂飯のそりあり幸き役小角より本道と寮あり

○石橋あり禁制の所あり

養徳の再建かきばしては所ふまゝにたゞに安んずる事とすなり ○裏の
上人の廟所才子二人の墓あり上人の御骨の中禪も上座佛も納ま
まじり

○佛産宮向御座り 支社の本地普賢菩薩ありは所て妊身の女
立形を安んずるは所の口死也

○白山持現 本地十一面観世音観三修り 坊舎の赤瓦通て中文出
小玉堂 鳥井御殿あり 尚社と早の化神は神の御幸神 秘

るまゝあるあり 三修りも所はせり 幸宮の境内も入石橋と波
てま本道の堂あり

○四本龍寺 室軒造 幸宮の千子観音あり 五丈の勝道上人公安
を尚山宿禰の時上人より小住居より修り修り

○三層塔 幸宮釋迦文殊普賢を安ん
御本社 御殿あり 幸神味相高長根命 幸地佛と馬頭観音あり

大月二年勝道上人は所不動信一修り 幸社と宇都宮と一軒と
又宇都宮の社傳と大己貴命やりの尚社神と専武運長久ら

第の御護神あり 神威いらるる 下野の大社あり 神寶と 神咽の
沖能の十一面観音中将姫蓮の系に織り佛画の切枝彌彌珠末具

外志のくこれあり 末社あり ○辨天堂 并十五童子 ○鹿嶋社
幸地堂馬頭観音 ○山王社 ○稻荷社 ○採燈護摩所石像

不動大日菩薩を安ん ○鳥居ありて ○三十番神堂を修り
別所は所も日光責の道具状のけを別所の内柱のけ一面

十一面観音表として観音は修り熱くしては別の木を長座
の間とくすく秘蔵の覆摩摩の同あり其やうに柱のみ佛神表

て建ちては小椽石像の者入る幸竹は不思議ありは別の
のあは方森の内小

○三宮 幸地普賢菩薩 ○一宮 熊野持現 幸地文殊菩薩 けあ社と御護神あり

上ノ立子佐中より神橋の中に入りて西若の坊舎より小西前へ
道より大若川の川端を通りゆくと又三行より小の芳橋若川をわたり七
町よりゆくと天台律院あり真雲院と辨尼山山御座主御建より
本堂希小三社持現社経在持門等建を法爽津津なる雲雲法津
摩の佛界より浄寂と戒光殿一不法親王の法を承り
○南若 西谷 善女寺谷何れも神橋より西より南より東より
町より 四町所 原町 小袋町 本町 上中下 大工町 上中下
板橋町 蓮花石町 此町の事本田母沢よりと高橋あり

- 妙道院 原町の端小ありは寺一山の善持師く寺山小○釋迦堂が
寺座傍の釋迦佛文殊菩薩と惠心のはく希よ慈眼大降の御乳有
はきり七若の善持佛と佛の堂のうあり○愛宕持現寺釈迦日の
佛よりは西谷より町頭小○八幡社本町の持守よりなり小
○六地藏堂ありは寺のう西谷通り七藏光寺へり送あり神橋より

窺光寺で二十町餘ありは道入の服よ

- 延命地藏堂それより七八町ゆあり○池石はるの上よりありなるあり
ゆよりゆくと又倍の云ありゆよりゆくと生法をせり名馬はるの中より
物より馬の蹄乃痕ありとせりより六町よりゆくと窺光の地小あり
は入り小

- 二本杖南の一大杉身く大サ牛成居たりと道狭狭く二つの本お對
せりはより南より東ありとて六七町経のく左の方

- 常の念佛堂本寺より延陀二寺佛惠心の浄化く浄正身は阿活院を
寄ははきり釘念佛の札あり又細々とは釘は握るなり是よりゆくと
常恒不息の念佛札は堂内より釘念佛の紐降覚源上人の浄教ありは
上人彌王より將來せり法衣の印文ありははきり此縁起小ありと
堂の南よりゆくと高れた所小

- 求聞持堂本寺より虚空蔵菩薩慈光の御作より教と



裏見
滝

一品准后法親王の真翰ありて多居込へて向ふ方小○二十番神堂
 あり登りて○不動堂○三笠赤倉の社あり又少一のりて
 毎殿あり
 ○御本社寂光大権現衆神ト照姫命幸地と辨財天女あり尚社
 弘仁十一年弘法大師の宗奉あり竹室廿二の子箱自身鏡その外
 ありてあり右の方小池ありその源遠ありて相傳く辨財天女
 身の布衣晒とて如く脱の南小知ると山傍の岩窟たのりてあり
 元工穴跡の梵字四空海とて記されけ地より上よ○二子山
 ○大尾山は奥ふへく○富士見山ありけ峯より富士の裾なる
 かなれば
 ○川俣の温泉をりて女人入湯きりて浄事社あり下りて
 ○別所あり寺内小辨財天十五童子伝安にけ寺の良の方に
 ○羽黒滝これより西原所より平岡大工所を通り森の中小

○ 養生院は寺ハ一山の墓所なり橋門の軌と弘法大師の墓ありて妙見
門とのつは寺の名物と日所よ

○ 阿陀陀堂奉る延陀二尊佛甚目の地と舟より大石川の橋成りしれ
向河原とて少一河あり

○ 慈雲寺神橋より道十二所あり幸きと慈光大師又涅槃の軌
あり寺の末大石川より舟よりりて忠のよ

○ 護摩堂ありは所合満が剛より向大岩れ人舟不動の石佛圓寂像と
是此處の剛の尊不憾輪の梵字ありそれよりりて左の山と名よ

○ 石像の地是共救とて又石の川端小
○ 靈庇閣は閣より眼成施を幸真小廬山の五老峯青天際人物と金葉
葉ともひはと風色より揚園忠が沈香木成とて閣とて一檀木成
標より射香乳香と土和して泥とて一四香小佛と四香園ともひは
危しと向小島とて○ 赤柳とて又雲の雲よ

○ 骨堂とある岩切切丸く猿人の骨を獲むそのよ小羅と子れ披せ
碑あり傍小石像の地是より度像六尺許はり小剛あり慈光の
の門とてよりは是寺で二所行ふは寺は境内より二所行の同河中も

又河岸也を奇心峰石あり是の寺とて小佛とて板小梵字の名号
お書とて求末とて竹書とて幸河り又川薩頂ともりは所と園木乃

高井とて是寺の紀の高野山の系務也と考中とれ至聖地とて山とを
考よ○ 素懸滝あり○ 平石とて十五尊像の石ありとてより序落

に右の方けりこ高見中と

○ 二宮と蓮師如本金剛童子の堂も有り日下は修れよ

○ 金剛山は上子化遊の窟とて入峯山伏の窟あり秘基勅切の道場なり
は地へ人入るひははははとて山と名ゆらん○ 松立とてより種と入峯
勅切の所より趣とては是小見く一山嶽とて小聖神の之を修れ所

かり築まらるる一色紀とて

○中禪寺の道筋神橋より中禪寺まで二里余所より母波の橋とて
 て川向ひと○蓮華石前坂と登りて○地蔵堂あり所の中経ふ
 ○蓮華石よりありは石をむく勝道上人中禪寺之通りて後大時徳の
 の結寺なりこれより三所所ゆれ右の町より久二石村とありてこの
 村を社名町とすは所ふ○業降書本業降書本日光月老十二神
 将十王身衣波等形又神明宮在蓮華石前より二町なり形く
 左の森よ○大日堂本寺石像の大日如来千臂佛法安坐は日あり
 地蔵堂ありは所の地蔵像の像は似たり乾土頭故向水也居て平村
 縁よを出因の地より偶は地よ是は石像像とて風光のらるる一又
 大日堂の別道道より右の方へ道の程二十町許ゆもだ

○裏見龍

北條町山家登りて流あり岩洞の頭より飛流して百尺高岩中

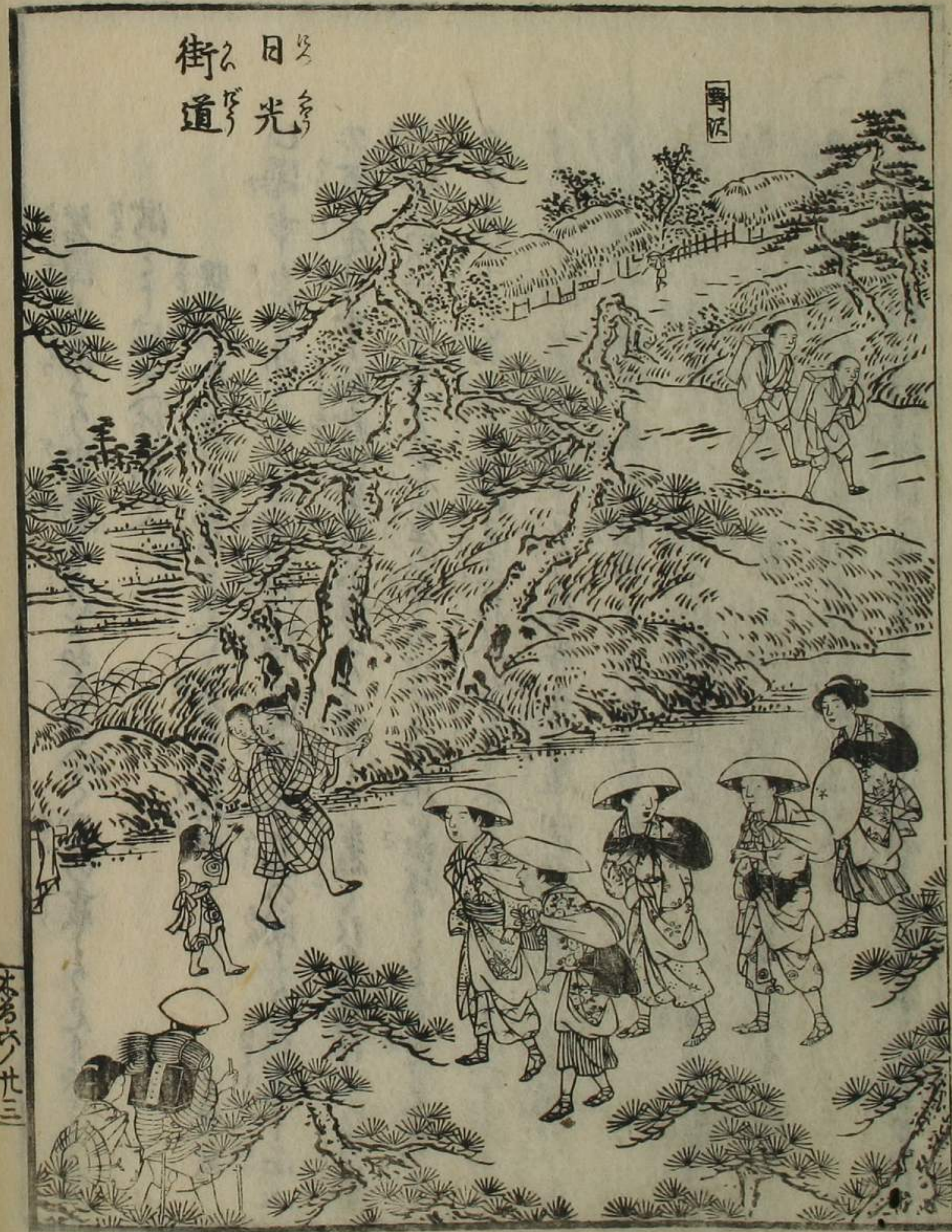
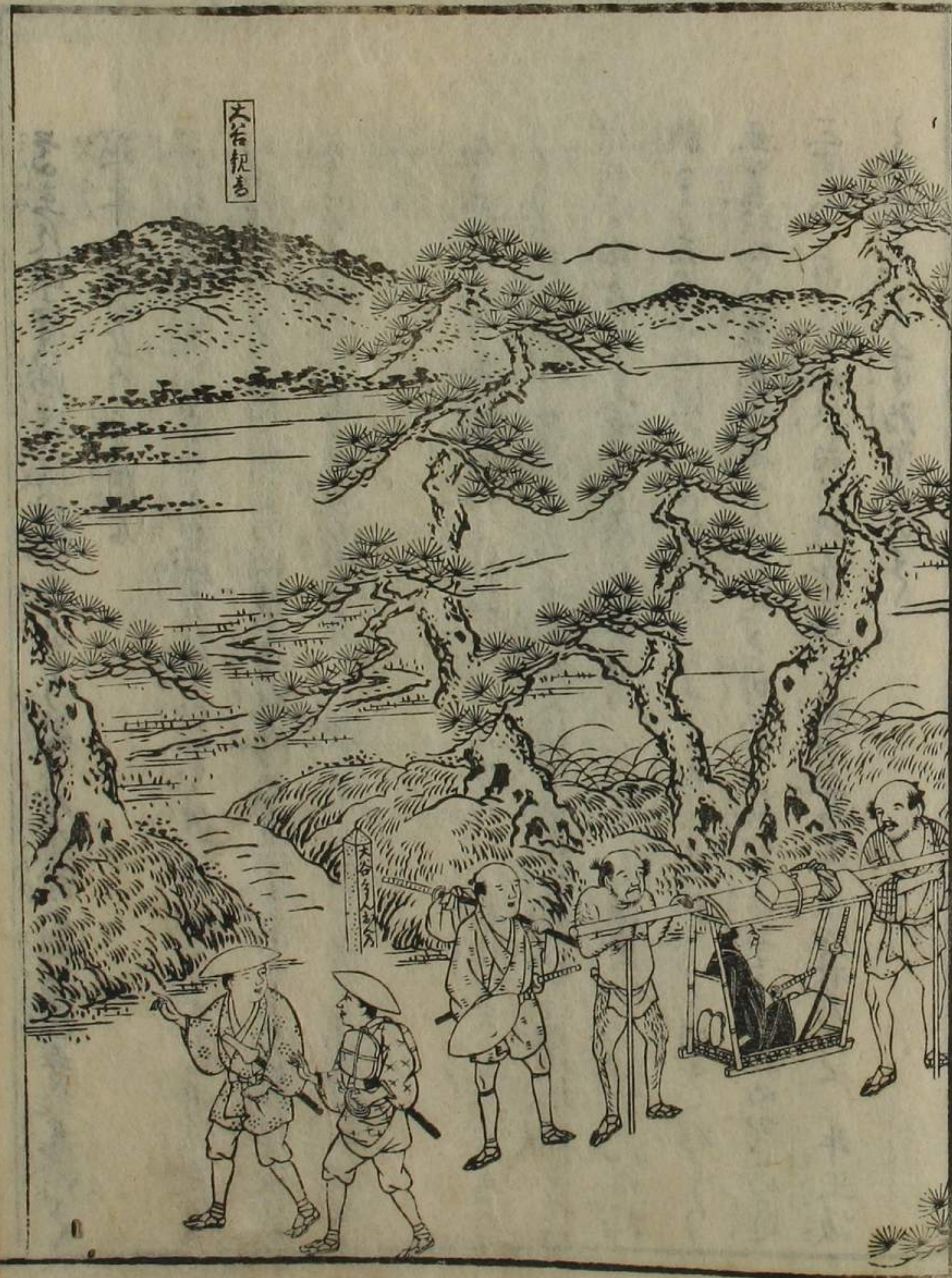
若潭小流より岩をよ身とむをめく流の裏より見まはうんんの
 流とすはてはるる

惣計を流小流多や甚先初先

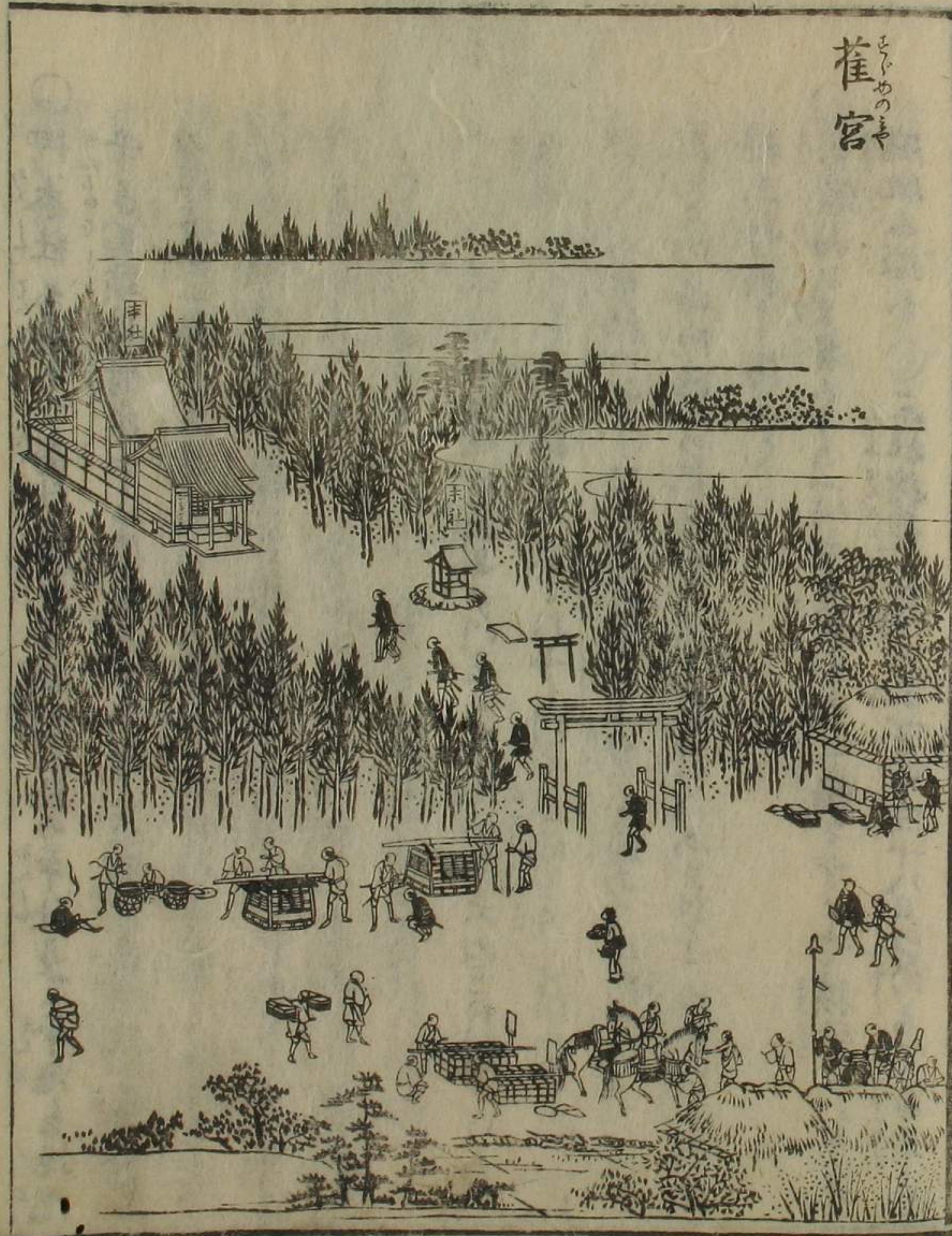
は瀑布泉高と十四五間許幅二間餘岩窟の洞より飛流し向ふ
 の方へ走舟車猛獸の勢ひ小似たり傍より巖くたを流はつて道
 づれをのけし出する岩窟の幸ありては飛泉流くくを身におま
 名くんよは荒沢不動の王立形小凡天り小飛泉多やせりどもうら
 より見る流とて小流より花帯文う庵山の流の清小白虹洞小やて
 飲寒劍天小倚く立はありの半形也ー
 又は側よ小飛泉ニツあり砂子沢橋をりて向つよ○産れ子れ足痕
 ある石あり左の町よ○鞍懸山○頼山あり砂子沢よりけく

○鳥井原地蔵堂ありそれより清流村あり

○清流寺山神を勝福山より半高子安地蔵形り聖徳太子不動



荻宮



多雲峯あり、雲小天迎りて星河半流れて、温の雲霞して、風濤
 雲よみく環を春山の晴小形も、霞ありけり、あまの清浄心
 と、船りて、仙境小八ふりて、渡りて
 ○湖水長サ二里幅二里あり、ひま一里才、津の所もあり、口面水藤樹修竹
 あり、湖上秋風、ふとふとも、共、あまの、水、色、水、白、浮、ま、は、る、く、
 深、な、れ、も、魚、鱗、を、く、も、ま、ま、白、ぶ、都、く、け、り、中、小、大、湖、三、あり、其、介
 小、さ、に、湖、早、八、湖、あり、ゆ、れ、高、山、の、麓、小、池、多、湖、水、あり、半、奇、異、人
 霊、地、あり、○候、の、地、秘、事、あり、そ、終、り、本、の、大、名、を、入、る、た、小
 ○陸、橋、○不、動、堂、本、寺、五、大、明、王、○妙、見、祠、又、夫、玉、の、ま、も、ま、ま、あ、ま、あ、
 あり、幸、地、龍、樹、三、流、あり、○立、本、親、善、堂、本、寺、千、手、親、善、堂、一、本
 六、尺、あり、び、小、日、天、王、の、像、あり、園、基、勝、道、上、人、立、本、と、其、地、見、て、別、別、
 小、寺、像、坂、東、十、八、表、巡、禮、所、あり、傍、く、り、い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 側、に、元、千、手、像、あり、五、大、寺、の、像、弘、法、大、師、の、清、化、又、勝、道、上、人、の、清、化、あり

○御本社 社殿あり 尚社大権現と月光三社の奉社あり 奉地を跡陀
 千手馬頭延曆年中の所造とあり 神宝を獲悉地經一卷金字
 の法華經一部八葉淺一面水牛の香爐象牙の單葉一管海童玉乃
 赤衣一領台無畏三藏の菩提子珠教勝道上人所誕生のこれ天
 降る方陽村其外あり 每歲正月四日武射祭とあり 社司登山
 して上列赤城の方より引く巻法とあり 赤城と當社の神祇あり
 中より赤城赤城神の鹿あり 鹿子ともけ月とあり 鹿子といふ
 鏡洞といふの矢と抜とあり これより赤城の鹿子といふ鹿
 あり 奉社の社より引く巻法とあり 鹿子といふ鹿
 弘法大師補陀修山の記とあり 中古没亡とあり 鹿を 准二后公辨法
 親王再興とあり

○男體山 又黒髪山ともいふ 山より登山ふ道難とあり 積雪多く寒
 風肌中激ふ ○三社持現山頂より廿九日四十八日の山より 毎年七

本考六廿六

月七日は峯に登りけし時七月朔日より中禪寺別所より 峯を一七日があひ
 持のりありて登山 三社法あり 信公より人奇長の雲霧を
 持のり男體山道三所せり

○戒壇堂 奉るの釈迦文殊普賢あり 山より三國の土垣細くや奉法
 の社あり

○根本社 ○摩伽羅天 ○山王社

○三層塔 奉る五智如来 ○採燈護摩前

湖水のひらきを遠く見たり

○歌の候これひらき 神軍に討勝たしひけし所 小所 凱陣あり 法軍に
 神達より 雲霧 霧法 風ひらき 山より 名付ると奉る 若祥天 再
 弥勒菩薩 金剛童子 あり 又 鹿伏の入峯 山伏の宿あり 毎年三月
 十三日入峯 四月廿日小出峯に 鹿を 鹿伏の峯とあり 其
 鹿のりて 向ふの峯より見たり

○寺が壽 茶所堂 ○日輪寺 五丈石のくび小勝道上人の御教あり

○上聖傳 湖中にあり一剛竹の橋を勝道の法骨に傳ふ花より

○枕字石 ○龍燈石 ○俵石

○千手演 親善堂ありくび小勝傳あり 幸き千手親善勝道の法地

かり毎年六月初日を七月まで道徳一七日の修めく演習定とく

船中系に岩々の石像が光る信を堅固にして宿をれ其身の行

橋とあり山時を右の別所にて一夜籠り望む船中系ありて午の刻も

多師ありたりおくは漢也の風景いたん方あり風景の名地は漢也

○風風水 ○紅葉浦 ○海月の池 ○大寄 ○大尻

○宇津瀧 ○高浦泊 ○獅子ヶ淵 ○金が勝 其外ありなき

○湯幸の道と別所の系は通し漢也一里ほどりて高浦泊よりそ

系をありたり

○赤沼原 湯場系より上は京方二里もありしり 青の神の御湯

五丈石のくび

きりとりくぬけ色に

○弓張楯 ○幕張山ありてありは京に勢一まむりより常小

下にあるまは日光持現の神ありて使令とく毎年必ず法をせ

その離れつちゆくそをり湯をぬけ番のさして終ふは京と去

が傍なり五月のけは聖城をぬけあるの花妻此回を寒風小開られ

暖かき湯暖まると湯く一耐小開く梅も梅も挑もほじも一なり

交へて盛なり真小仙境にありて親よりぬけ色小

○湯元とありこれ成陳見く其母より成通より

○湯元とあり湯守八軒あり三月中旬より九十月の瀬中をあらひの

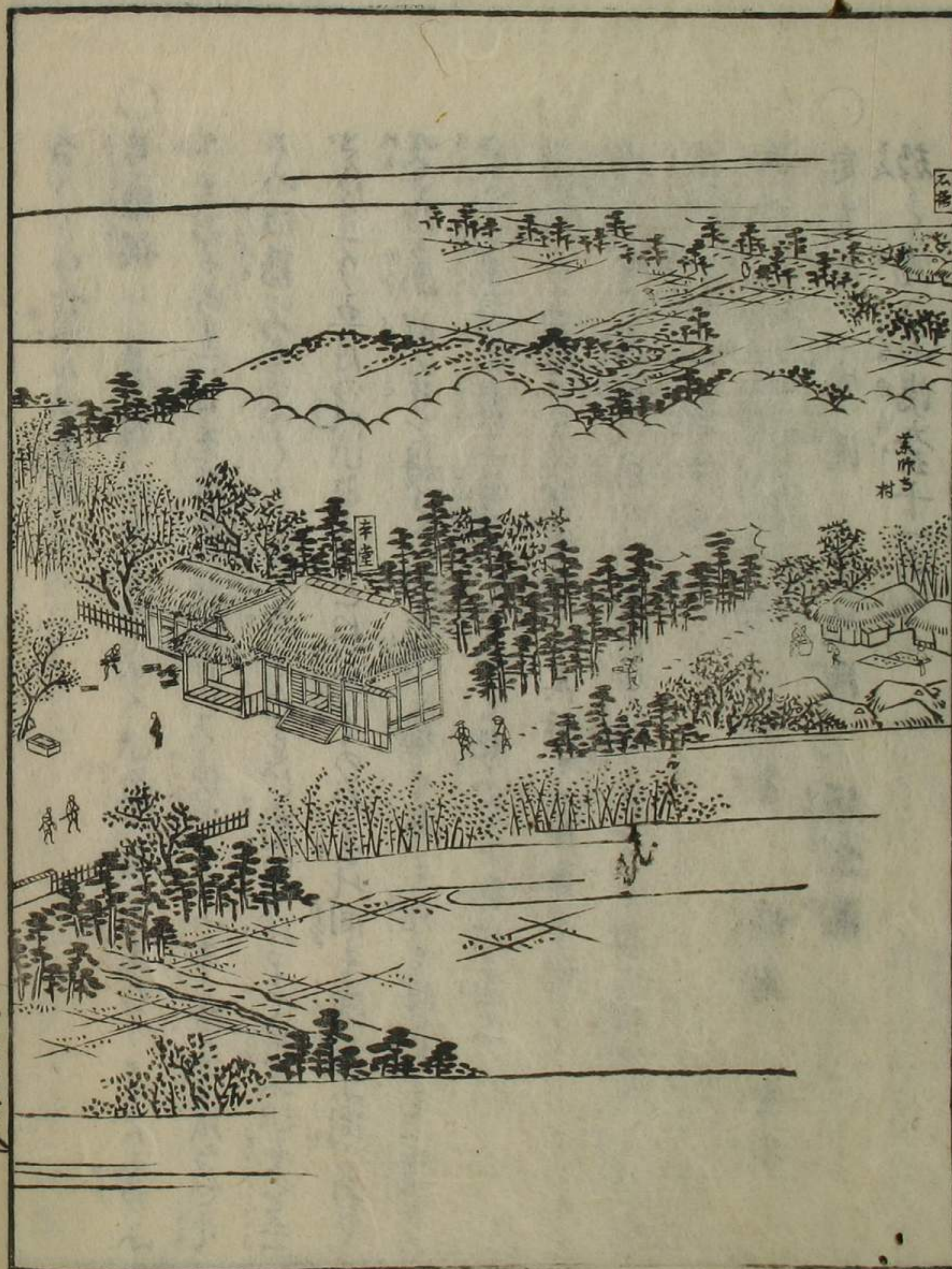
店旅舎ありて系幸自由あり

○御前湯 入りはありて名はあり ○滝湯 ○姥湯 ○釜湯

○自左湯 ○中湯 ○茶所湯 ○河原湯

約く湯八子湯壺十一あり

藥師寺



け湯の功効は諸病あり但し此湯も積氣と美種を忌むなり
湯壺としてを弄弄ありて入湯の當年毎小群を打たり又此湯の
山の名を

- | | | | |
|------|------|-------|------|
| ○大真子 | ○小真子 | ○狎山 | ○帝釋嶽 |
| ○大王山 | ○雪山 | ○西二荒山 | ○三笠山 |
| ○赤倉山 | ○鈴嶽 | ○温泉嶽 | ○女峯山 |
| ○太郎嶽 | ○月山 | ○白根山 | ○湯殿山 |

男體山のわけは後より出羽の湯殿山を指せり夏湯殿山といふ
坂勒とい所の事あり裏見龍の道より坂通といふ

○善峯龍を神中祿子の帰路より大尾神子石の所より又六町ゆく
け湯の湖水の流あり此湯の大尾泉にして樹林繁茂する中より流る
敷百の布衣さくはごとく其尺天をばぬる高き高き冷くして室つ小
李白の言小飛流直下三千尺疑是銀河落九天云作是るハこの飛

泉母を比せんや其流を降る小目るめれ再ひる事能はた流の
なりり奇樹靈料多して花るるく修く貴業なりけ所より
○大平不動堂のト（ゆり）

右の條く日光山中の畫境梵宮状なりを指してめられた初く五
六日も洋谷もせられ委くいれ一雅一續古事談云下野園二荒山の
嶺本湖水あり廣さ千所なり流くもある事数ひあり樹林は方めぐる
せども本葉一ツあふ浮すれ又魚をば一若く魚放ては別流ふす
まき物あり我二荒の権現山嶺ふすまき物なり

○日光名物名製数
慈悲心鳥 慈悲心とあり鳥一即雀よりか一たあり尾長一尾度
形も多し又三光を有り尾長一尾あり尾長一尾あり月日星一
とあり尾長鳥と遠里又けらとあり鳥有り鳩の去れさありいんこ一
ゆり本巻六の世九



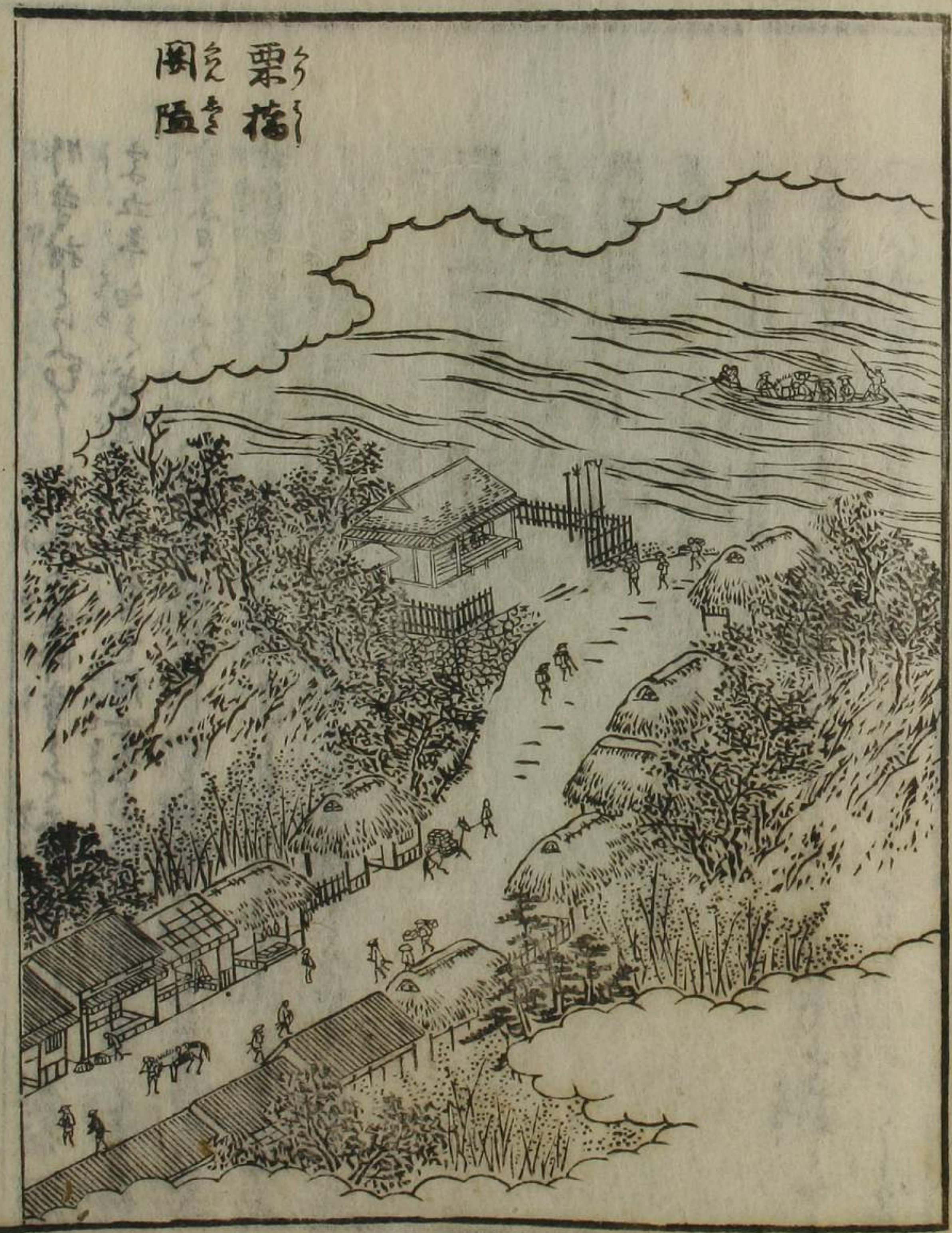
去来
 枕
 了の
 傾城
 中
 摘付
 や



小山田の
 驛
 この道筋は
 奥列樹を
 以て帯小
 旅人のゆた
 けりく
 共相婦
 夫能と敬ひ
 夕日のやくに
 立歩くゆた人の
 形を引く
 一乗のほり
 形をせと

十一
 五
 三
 二
 一

栗橋 園



○徳川郎より宇都宮まで五里半

は街乃竹本不自由なる少人高き民家此處の丸家ま一様小庭
と後々後なる其所の人の細かよりあつていゝ湯守にせられど客全
みふ麻あつたて宇都宮より栗橋までとあり日光より宇都宮
へ五里半のりていゝ宇都宮より栗橋までとあり日光より宇都宮

よりいゝ宇都宮まで七里十六所ありいゝ宇都宮よりいゝ所までいゝ奥谷街乃竹乃

少人馬の往來をびく状自由なり合筆も東海道路よりあけ

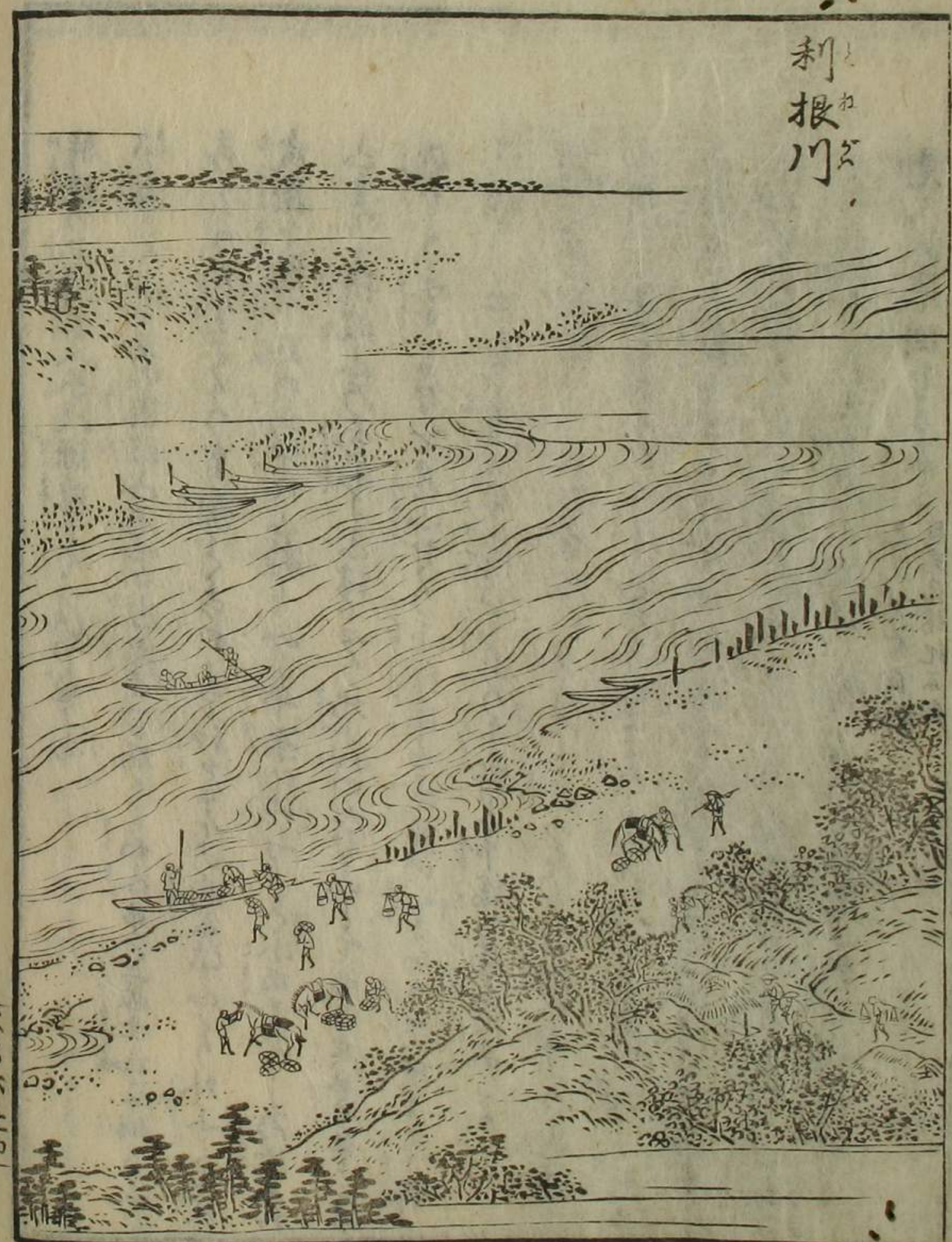
ともいゝ宇都宮の味下廣く所長く徳川人よりいゝ園の都

○菅宮より石橋まで一里半五所

け間も列樹の松多し一民衆所々あり

○石橋より小金井まで五里半

石橋より栗半までいゝ小薬師寺とて小丸寺あり即其所成薬



○石橋より小金井まで五里半

小金井の道より半里東に千葉とす所有民材千束助を居はる

○小金井より新田まで式十九町

○新田より小山まで五里半

○小山より間々田まで五里半六町

小山の町長一町の為小古城の跡あり小山割官以承代々小山氏の居

城なりとすは間々田より八木廣原に所々河中に所々寺院あり

とすは結城と小山のき里半にあり町ありては地と下野常陸

武蔵の三ヶ所に分属しとす古城の跡あり結城氏代々の居城なり今と

水北侯を方八千石領し居は結城と安摺とす一郡ありとす

玄翁和志郡須野の報生る所なり一町の製法教也水晶の珠救家也

中して今あり

小山より小の方の暖野之田畠ありとす右とも小背遠なり南水

本居の冊五

東西幾里より一里半ありは林園もあり奥列境まで形のとれたの産物

○同々田より井本まで五里三十五町

宇都宮城より一町間々田と泊るは所々下野と下総の界なり

○井本より古河まで廿五町

は間々の列樹長一

○古河より栗橋まで五里半

古河の町長一土井大炊頭侯七万石領し居は城下の町乃其れ

徳を通ふ少城と道より見るとは古河の町徳は不利根川の河よりあり

は河より古河に城あり古河の河より名は是て古河あり許家乃

後とを書り

万葉 後々々々々の後々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

後古 後々々々々の後乃いつて古河に居るは

後古 後々々々々の後乃いつて古河に居るは

○ 桑橋より幸手まで貳里二町

桑橋小園吏所ありは圃より在る方小利根川あり坂東第一の大
河なりとありもはありは人坂東を即より上野の奥沼田より流る
上野下野武蔵下総は色々隅田川に注いで海に入

桑橋より幸手まで一里八町
糟登より江戸まで一里八町

○ 幸手より松戸まで一里半

○ 松戸より糟登まで一里半

○ 糟登より越谷まで貳里八町

は日と糟登より宿はは狛より子丑の方小園宿より小新あり之世大和
守彦の居跡あり五万八千石ありは糟登のよりはさふ不動虎連
園東の山伏の司あり

○ 越谷より草加まで一里廿八町

岩槻と越谷より二里廿八町あり大長丹後守彦の居跡と二万石と伝せり

○ 草加より千住まで貳里八町

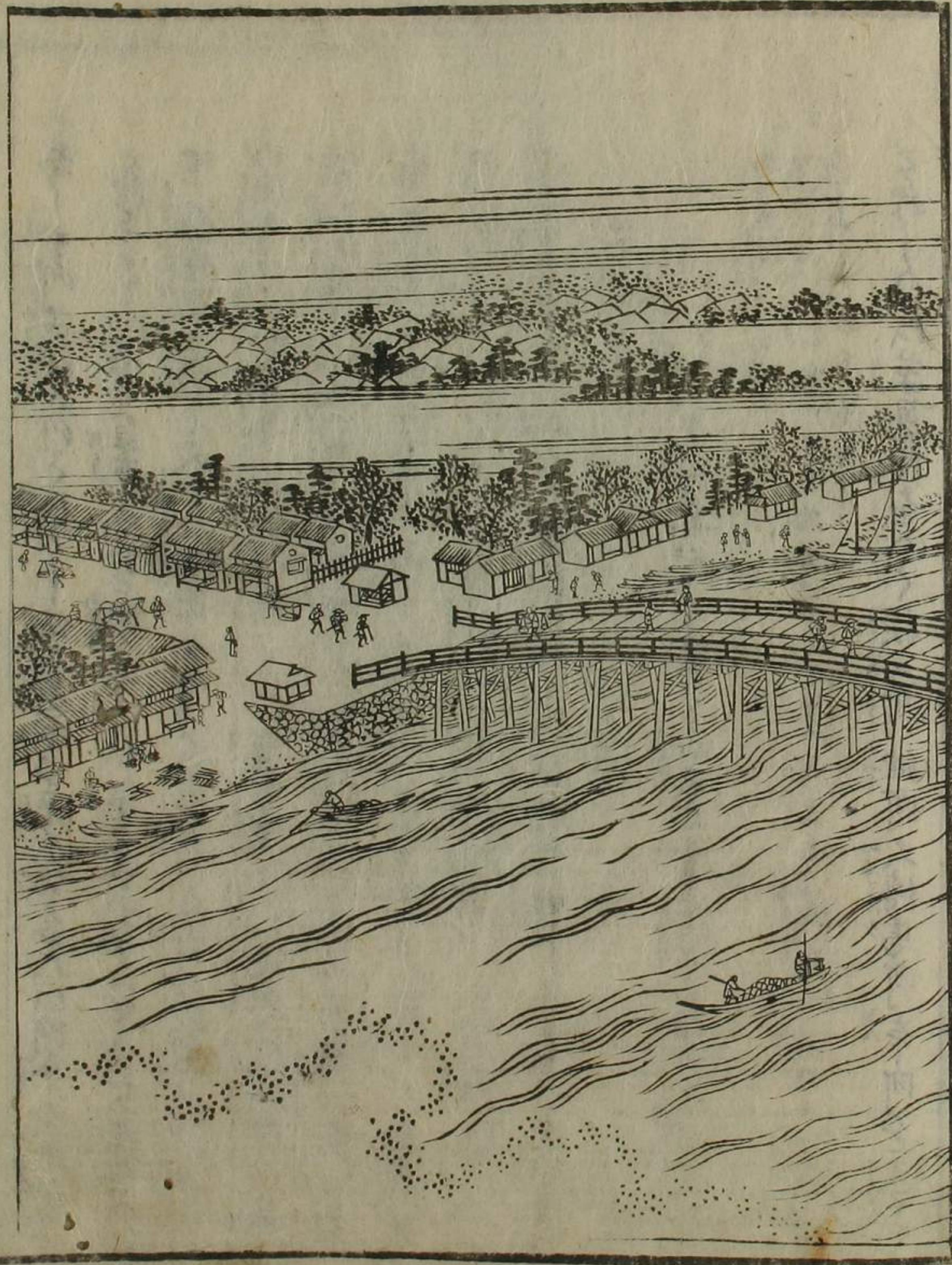
草加の西北方に糟登まで一里八町の池ありと又街道より見ると
千住より江戸日本橋まで貳里八町

○ 千住より江戸日本橋まで貳里八町

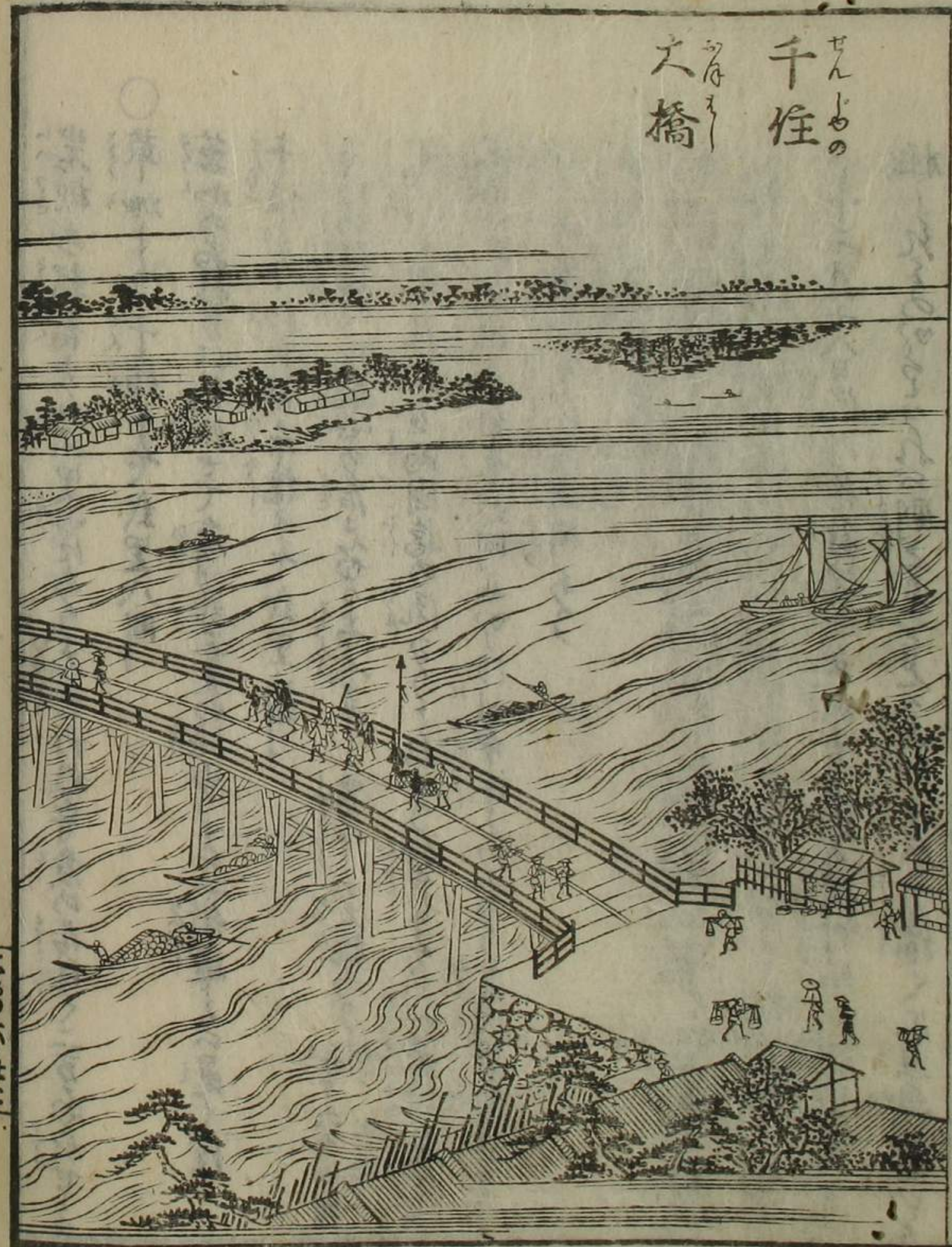
千住の駅跡に遊女の店あり者多し宿中小大橋あり
荒川其架に末々兩園橋の流るるこれより江戸まで一里八町
三谷の所は色々新橋町あり日中橋ありあり荒川の池あり
江戸の方新橋町あり

○ 金龍山蔵草寺

孝貞親世音 孝徳天皇大元幸小沙門勝海始は寺伝系
又兼隆院天慶五年安房守平公推再興をひり推古天皇二十
六年三月十八日漁師捨鉢成武城とあり之は淡州河内綱領下り
桂しれまの町とあり別と道を記す小親善の寺像く不思孫の心と



せんじの
大橋



本巻六卅七

あしき川 藜城のりくむら 飯本草堂と結ひ安をけ所今の二権位
こ種あるそあを言ふを記して 山の人堂とていふそ右の権位
成二社権位と空も又十社権位と今に藜をりて 本草堂結ひ辨別天
の社ありこれに圓末二辨天の其一より 徳聖堂結ひ圓魔堂石像の笑
姿大黒天と弘法大師の他神明の社五帝権位堂結ひ隨身門と門
奉正七月の十六日ありふゆる神傳門の歌等海堂の等しく又山門の
傍ふ結ひより編系神と南所の地まの形ありとて又明王院あり
姥が他統の石よりあり辨天の角一海への姥が娘成をりたり其外五院
二十箇寺あり

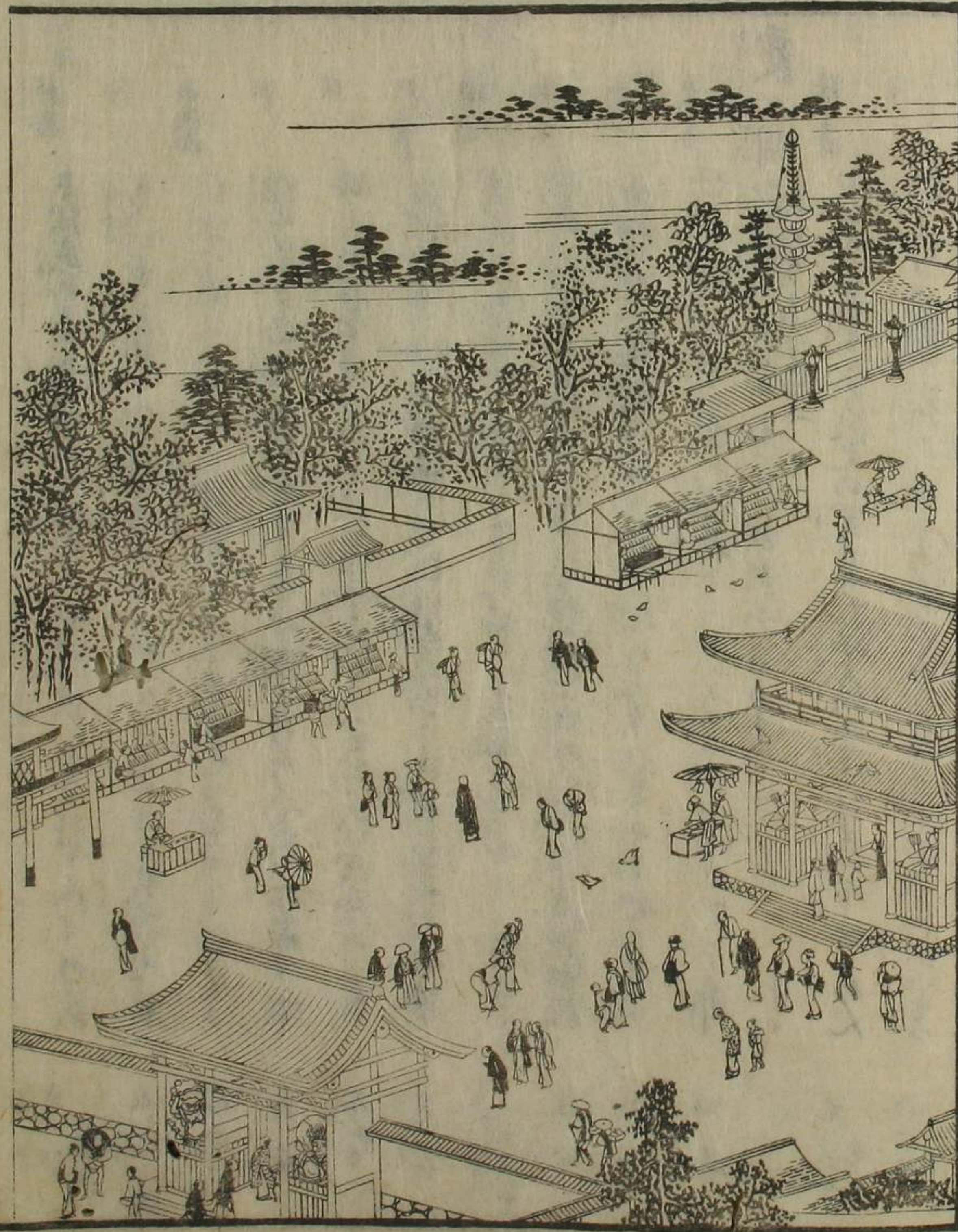
○ 眞土山 あり 又侍乳ふとも書く山より本聖天なるあふ山とトを
○ 聖天町 あり
○ 浅草川 あり 官戸川も 間田川も 又上を荒川と名づく 千住川
こ種より浅草見附をへく横山町他町大傳馬町幸町をこく

本巻六ノ世八

武蔵野

後飛 女らむより家林のむら 神はけのよりまをむらあり
新古今 むらむらやりのも林のりそそむらいうむら風の手まゆらん
日 け末をまきむらの武蔵野小茅の末より川ふ月ひ
後古 武蔵野 台月れ入るれひひり せれ末にありけちり
日 むらむらひり末とけく成りなり今昔そとふふの徳乃月
日 幸ふふふと空ありぬあふぬのく日ふけぬ武蔵野原
後拾 きの日れり程も形を言ふふ里遠とむらむら野乃と
玉葉 けふはは入るを母ありむらむらけふけふけふ林の末の月
後千 子規一喜少ふむらむらけふけふけふけふも毎く是れ
日 せけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ
後拾 善もまこ色もむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

貴之 通光 抄政 大政大臣 通光 正三位 如家 後鳥羽院 下野 正三位 和家 法中 秋海 山階の道 九六段 後二位 家隆



勅拾

日

勅後拾

日

勅後拾

日

勅後拾

日

勅後拾

日

勅後拾

日

勅後拾

武蔵麻のよもぎ葉をわらわし中野を隔ててさくら守りしゆの系

後二位 家隆

分りて花のちをたててり外にむすうよりせん武蔵野の系

後三位 家隆

り末の病をよせし白飯のをもよあむるむすうはくも

後三位 家隆

准方より保寧唐の善手よき中流を流るる武蔵野の系

定家

ゆの根をさうけしむる白雪れむかふつむ武蔵野の系

藤原良房

武蔵野ゆゆりの色もよひ佳ぬえあつて武蔵野の系

定家

まのよき履の妻やよる夜はくこも草をむすしむる

左衛門院 仲製

せりし葉をよせしゆりもよひあつてさの系乃雪れたれ

死昭

葉枕はく旗屋のらねい日敷けさうさうしむる

定家

むすしむる武蔵野の系乃雪れたれさの系乃雪れたれ

好忠

武蔵野ゆゆりの色もよひ佳ぬえあつて武蔵野の系

好忠

武蔵野ゆゆりの色もよひ佳ぬえあつて武蔵野の系

好忠

武蔵野ゆゆりの色もよひ佳ぬえあつて武蔵野の系

好忠

新古

向丘

新勅

後古

玉系

文系

源兼の舟

千載

武蔵野ゆゆりの色もよひ佳ぬえあつて武蔵野の系

後三位 家隆

武蔵野ゆゆりの色もよひ佳ぬえあつて武蔵野の系

好忠

武蔵野ゆゆりの色もよひ佳ぬえあつて武蔵野の系

好忠

武蔵野ゆゆりの色もよひ佳ぬえあつて武蔵野の系

好忠

武蔵野ゆゆりの色もよひ佳ぬえあつて武蔵野の系

好忠

武蔵野ゆゆりの色もよひ佳ぬえあつて武蔵野の系

好忠

武蔵野ゆゆりの色もよひ佳ぬえあつて武蔵野の系

好忠

武蔵野ゆゆりの色もよひ佳ぬえあつて武蔵野の系

好忠

跋

蘇島此種之記ふる乃ちつと未だけりあるものなり今其はあれども
記りぬるなり其記表有るを画手宮に先く記きてよるのし世に
見てもこれれこれ記すなりいふを好む情地をあらわすものなり
せらちわこ種は清あへ不夜藤乃名と記すもこれのたれよむせんと
中うれぬ意うとてよ記すも母のれりよありさけき記されも
いふ事くして意く志くぬ界れ見すなり一た記すは東の橋お出さる
身去り一季和の三はらたあはる夏れ初くく柳葉と記す乃里より
まをぬる者いあり海流波中へのけりうこれとりの記すぬくすて見
免えあつて扱乃月日紙とりのむとて事の始も幸記終ぬるあり一
とこれ記するあり中にもその志ありなり見すも人とはち事のみ
れとらつてふものも其ありなりぬる意たへしとのを後人して
りてありあひ事なりとてみの記すもあれとせらふ見ゆりて
平安畫工

平安畫工

法橋西邸中 和守り



本巻六甲十一

文化二年乙丑三月

大政書林

京都書林

和泉屋源七
河内屋儀助
今津屋辰三郎
和泉屋久右衛門
塩屋喜助
小川多左衛門
善屋儀兵衛
升屋藤兵衛
菱屋三郎右衛門
越後屋清太郎
美濃屋小兵衛
西村吉兵衛

